



聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

難聴理解授業・職員研修について教えてください。

茨城県立水戸聾学校区の、小学校、中学校、高等学校等からお受けすることができます。詳細については、聴覚障害教育支援センターまでお尋ねください。

難聴の児童生徒の在籍校、本人、保護者と相談をしながら、難聴理解授業及び職員研修の内容を検討しています。今まで実施した難聴理解授業及び職員研修の一例をご紹介します。



【難聴理解授業及び職員研修の様々な一例】

○補聴器体験

補聴器で きいてみましょう

- ・友だちの声
- ・自分の声
- ・遠くて話す人の声
- ・大きな話し声
- ・小さな話し声
- ・紙やノートをめくる音
- ・イスやつくえを引く音
- ・エンピツやノートが落ちた音
- ・はくしゅの音
- ・ドアをあけしめる音
- ・パタパタした足音



など

○補聴援助システムの活用の仕方



補聴援助システム（ロジャーオン）の活用

- ・騒がしい教室の中でききとりやすくなる。
- ・離れた所から・広い場所での話しが伝わりやすくなる。



直掛けモード
口元付近から
20cmくらい離して使用。



インタビューモード
話す相手にマイクロホン
を向けて使用



卓上モード
360°（全方向）の入力用
マイクロホンとして使用

静かな場所
ならば有効

○難聴擬似体験（難聴者とコミュニケーションをとる体験）

「きこえにくい役」を一人決めてください



※きこえにくい役の人が
話に入れるように工夫
してください。



「伝音難聴」のきこえ方（体験）

- ・耳を強めに指で押さえてみましょう。
おおよそ40dBのきこえ
（軽度～中等度難聴レベル）



○難聴者が困ることやお願いしたいこと

聴覚障害があると きき取りに困ること

実は…

- ・口元が見えずに話される
- ・小さな声や早口で話される
長々と話される
- ・何かをききながら同時にする
- ・よく似た言葉をききわける
- ・二人以上の声をききわける
- ・離れたところや後方から呼ばれる



7（しち）時？

1（いち）時？

○補聴器、人工内耳、骨導補聴器について

○耳のしくみや音の大きさについて

○オーディオグラムについて

○難聴についての紙芝居や難聴クイズ

○「なんちょうなんなん」の歌の紹介

○手話・指文字体験 等

